

2012年度受託研究概要報告

三木市まちの歴史文化資源調査業務

研究メンバー

山之内誠	デザイン学部環境・建築デザイン学科准教授
川北健雄	デザイン学部環境・建築デザイン学科教授
長濱伸貴	デザイン学部環境・建築デザイン学科准教授
金子晋也	デザイン学部環境・建築デザイン学科助手
不破正仁	デザイン学部環境・建築デザイン学科助手

委託者

三木市文化遺産活性化実行委員会

研究概要

本研究調査は、三木市の旧市街（三木城址付近の旧湯の山街道沿いとその周辺）を対象に、まちの意匠、材料、工法、環境、精神などの、いわゆる「三木市の歴史文化資源」を整理・記録するとともに、それらをわかりやすい形で住民たちに示し、彼らに三木独自の歴史文化を再認識してもらい、最終的に継続的なまちづくりへと繋げていく手法を探ることを目的としている。

また、本研究調査は平成22年度から継続的に実施しているものであり、同25年度まで継続することを予定しているが、3年目にあたる平成24年度は、前年度に引き続き、三木旧市街におけるフィールドワークを実施し、まちの歴史文化資源の発掘・再発見のための基礎資料作りを進めた。

具体的には、前年度に三木市本町2・3丁目のナメラ商店街のある付近（旧湯の山街道、あかし道、およびかわし道沿い）において実施した町家の現況調査および屋



外表出物等の調査を周辺に拡大し、ひめじ道沿い（本町2丁目、福井1丁目、同2丁目）、旧湯の山街道沿い（ナメラ商店街より北東部：本町1丁目、府内町、芝町、大塚1丁目、同2丁目）、東條街道（府内町の常楽寺以南）について実施し、町並みの現況を把握しつつ、まちの歴史文化資源として考慮すべき対象について検討を行った。

研究成果

1)町家の現況：今年の調査地は伝統的な町家等の割合が高く、全体の約3分の1以上を占め、さらに商店街の中心から外れているため看板建築や面被りの準伝統的建築は12%程度にとどまること（昨年調査のナメラ商店街では約3割）／二階建、切妻、平入、棧瓦葺が圧倒的に多く、この形式が三木における町家の基本形態と考えられること／調査地全体を通じて起り屋根25%前後、出桁造20%前後、軒裏塗込28%前後、袖壁は2割強という高い出現率で、いずれも昨年度調査したナメラ商店街付近の3倍前後となっており、古い町家の残存度が高いことが窺えること／厨子二階はひめじ道の本町2丁目および福井1丁目の1／4、さらに東條街道では32%を占めており、これらの地域が古い町家を特に良く伝えていると考えられることなどがわかった。

2)屋外表出物：魅力的な屋外表出物として抽出された物件は、前年度のナメラ商店街付近と比べ、店舗装飾の要素が大きく減り、建物の構成要素が大幅に増加する等、エリア別特徴が浮かび上がったこと／福井1丁目・本町2丁目（ひめじ道）及び府内町（湯の山街道・東條街道）に抽出物件が多く、比較的新しい住宅が多い大塚1丁目には少ないこと／魅力の種類としては、①魅力的な建築構成・建築細部、②植栽等にも生活のあふれ出し、③賑やかだった時代の名残り、④人の営みの積層による面白い景観、⑤長く放置されて生まれた寂びの風情、⑥昔ながらの生活・信仰の風景、⑦魅力的な空間形態（屋外空間）の7種に大別でき、必ずしも三木ならではのものとは言えない、ありふれた風景の中に、魅力や愛着を感じさせるものの多くが存在していることなどがわかった。